

バニラ

学名： *Vanilla planifolia* Ander 科名：ラン科



これはバニラの花です。アイスクリームでお馴染みのバニラは、甘く上品な香りがありますね。ほとんどの人が一度は嗅いだことがある香りだと思います。

バニラはメキシコ東部から中・南米の高温多湿な森林地帯に分布し、熱帯地方で広く栽培されている性の多年草です。7〜8月に黄緑色の小さな花を咲かせ、果実は香料として使われます。その細長く鞘状の果実は、黄色く色づき始めた頃に採集され、ゆっくり発酵・乾燥されることであの独特な甘い香りが作り出されています。鞘の中には小さな黒色の種子が無数にあり、バニラビーンズと呼ばれます。また、バニラから得られる甘い香りの成分「バニリン」をアルコールで抽出した液体のことをバニラエッセンスと言います。このようにバニラは調味料として料理に、香料として化粧品、香水などに広く用いられています。

バニラが薬用として用いられることは稀ですが、その甘い香りは疲れた体を優しく癒してくれるだけでなく、リラックス効果があるとされています。

バニラの実



生薬名 香草蘭（コウソウラン）

薬用部位 果実

薬効 鎮痛、解熱作用

用途 調味料、香料



フジマメ

学名：*Dolichos lablab* L. 科名：マメ科



フジマメは熱帯アジアやアフリカ原産で、各地で広く栽培されるつる性の1年草です。茎は紫色を帯び、他のものに絡みつき長さ6mに達します。葉は3小葉からなり、花は白色や赤紫色の蝶形です。さやが扁平で三日月の形をしており、3〜5個の白色の種子を含みます。花が可愛らしいことから、観賞用として育てられることもあります。

フジマメという名前は、花がフジの花穂に似ているためつけられました。日本へは江戸時代前期に、隠元(インゲン)禅師が中国からもたらしたと言われ、関西ではインゲンマメと呼ばれることもあります。私たちに馴染みのある、普段家庭で食べられているインゲンマメと混同されがちですが、別の種です。

種子には解熱、健胃作用があり、消化不良、嘔吐、下痢、食欲減退にも効果があるとされています。漢方では、参苓百朮散(ジンリョウビャクジュツサン)などに配合されており、酒毒を消す作用もあるため、二日酔いにも効果があるとされています。また、花は下痢に効果があるとされています。お腹の調子が悪い時は是非、フジマメに頼ってみてください。

生薬名	扁豆(ヘンズ)	局方生薬
薬用部位	種子、花	
薬効	消炎、止瀉、解毒、利尿作用	
用途	胃弱、嘔吐、浮腫、下痢などに用いられる。 参苓百朮散(ジンリョウビャクジュツサン)	



タバコ

学名： *Nicotiana tabacum* L. 科名：ナス科



タバコは熱帯アメリカ原産で現在、世界の温帯、熱帯に広く分布している多年草です。茎は直立し、草丈は1.5〜2mです。全体に線毛が密生します。葉は楕円形で先がとがり、長さ30cmほどになります。花期は夏で、花は白色やピンク色で小さく、鐘の形をしています。果実は卵形で、多数の細かな種子を有します。葉にニコチンを含んでいるので、タバコを生産する目的で商業的に栽培されますが、鑑賞用として植えられることもあります。

平成30年7月には望まない受動喫煙の防止を目的とする「改正健康増進法」が成立し、喫煙することは一般的に悪いことという認識が強いです。しかし、昔はタバコの煙を病人にふきかけたり、葉タバコを団子にさせたものを病人に食べさせることで、吐き気をもよおさせ身体の中の毒素を外に出させるなどといった、病気を治療する目的として用いられていました。

過去では治療を目的としていたのに対し、現在では煙たがられる存在で、過去と現在では認識が大きく異なるタバコはとても不思議で面白い植物です。

生薬名	煙草(エンソウ)
薬用部位	葉、茎
薬効	神経麻痺、催吐作用
用途	水虫、害虫、蚊の駆除に用いられた。 催吐薬として用いられた。

